

平成22年度 国保野上厚生総合病院改革プラン点検・評価について

1. 総論

昨年度末よりの入院基本料のアップにより収益が増となる。費用については昨年度より2.3%の増ではあったが収益が7.7%の伸びであったため純利益は赤字ながらも昨年度よりは回復傾向に転じた。

2. 改革プラン進捗状況

国保野上厚生総合病院改革プラン平成21年度実績調書

市町村等名 海南市・紀美野町

病院事業会計名 国民健康保険野上厚生病院組合事業会計

(単位:百万円、%)

項目	平成20年度策定 改革プラン値(X)	平成21年度実績(Y)	平成21年度実績が計画未達成の場合はその理由	
医業収益	2414	2490		
経常収益A	2915	2970		
医業費用	2756	2752		
うち職員給与費	1432	1455	医師不足に対する費用と看護職員の増が大き	
うち材料費	641	654	削減の見込みが過大であった	
うち減価償却費	160	159		
経常費用B	2917	3045	経費削減の見込みが過大であった	
経常損益(A-B)	-2	-75	経費削減の見込みが過大であった	
単年度資金収支額	27			
地方財政法施行令第19条第1項により算定した資金の不足額	0	0		
地財法による資金不足比率	0	0		
経常収支比率	99.9	97.5	経費削減の見込みが過大であった	
職員給与費比率	59.3	58.4		
病床利用率	68.3	69.6		
一般会計からの 繰入金	収益的収支	() 327	() 380	
	資本的収支	() 132	() 72	21年度の建築工事の支払が予定より少なくなったため1/2の繰入を少 なくした為
	合計	() 459	() 452	計画時より支払予定額が下がった部 分があった為

評価結果 : ①費用については、計画からの乖離があるため今後も一層の経営改善が必要。

②再編ネットワーク化については管内診療所等と診療情報の共有化を推進していきたい。

③経営形態のあり方についてはアクションプランに沿って公営企業法の全部適用のメリット・デメリットを検証し最終年度に向け一層の論議を進めなければならない。